

【テーマ1：学校現場への研修転移に資する研修成果可視化システムの開発】

【団体名】

横浜国立大学教育学研究科
 連携：横浜市教育委員会事務局
 教職員人事部教職員育成課

モデル開発概要

現場における課題

- ◆ 研修の高度化：「令和の日本型学校教育」を担う高度な資質・能力を有する教師の育成が急務。
- ◆ 「研修観」の転換：「新たな教師の学びの姿」（個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」）を目指す。
- ◆ 「研修転移」の実現：研修での学びがその後の学校における実践に確かに活用され、成果を生み出す。

モデルの概要

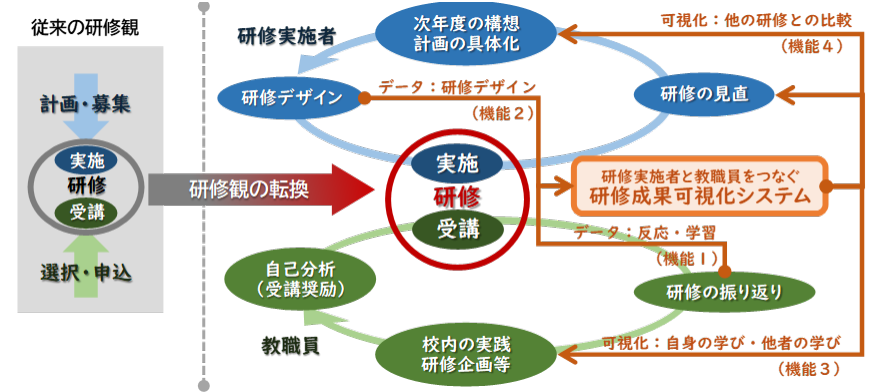
- ◆ カークパトリックの研修評価モデルに基づく研修成果可視化システムを開発し、教員研修での研修転移を支援する。
 - ◆ 教員と指導主事に対して、研修（研修デザインと研修での学び）を可視化し、リフレクションを促す。

活用する技術・ツール等

- エクセルのマクロによるツール開発。

高度化に資する取組

システムの利用モデル



研修転移の実現

機能2：指導主事
 研修デザインに
 関するデータの収集

機能3：研修受講者
 他の研修受講者の学びの可視化

機能4：指導主事
 他の研修との比較結果の可視

システムの流れ

研修名	研修日	研修内容	評価	平均	標準偏差	最大値	最小値	中央値	分散
000研修	2024/1/10	研修内容	評価	3.75	0.20	4.00	3.50	3.62	0.24
001研修	2024/1/10	研修内容	評価	3.87	0.19	4.00	3.50	3.70	0.21
002研修	2024/1/10	研修内容	評価	3.97	0.18	4.00	3.50	3.80	0.20
003研修	2024/1/10	研修内容	評価	3.65	0.25	4.00	3.00	3.42	0.31
004研修	2024/1/10	研修内容	評価	3.56	0.28	4.00	3.00	3.38	0.35
005研修	2024/1/10	研修内容	評価	3.44	0.30	4.00	3.00	3.29	0.38

モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

○指導主事：受講者のニーズや研修の成果を把握し、自己の研修デザインを振り返り、改善し続けられるようになる

機能4による可視化：
 ・ 受講者の意識との差を確認することで、研修での手応えと、実際の反応とのズレを捉える。
 ・ 他の主事の自己評価と比較することで、より効果的に研修を振り返り、改善することが可能になる。

○受講者：学びを校内の実践へと活用し、その成果と課題をもとに学びを継続できるようになる

機能3による可視化：
 ・ 同じ研修の機会をより自己の学びに結びつけ、現場での実践に関連付けた好事例に触れられる。
 ・ 「こうやって、資質・能力を高め、現場で活躍している仲間がいる」という刺激を得て、自己の研修後の実践をより高めようとする姿につながる